

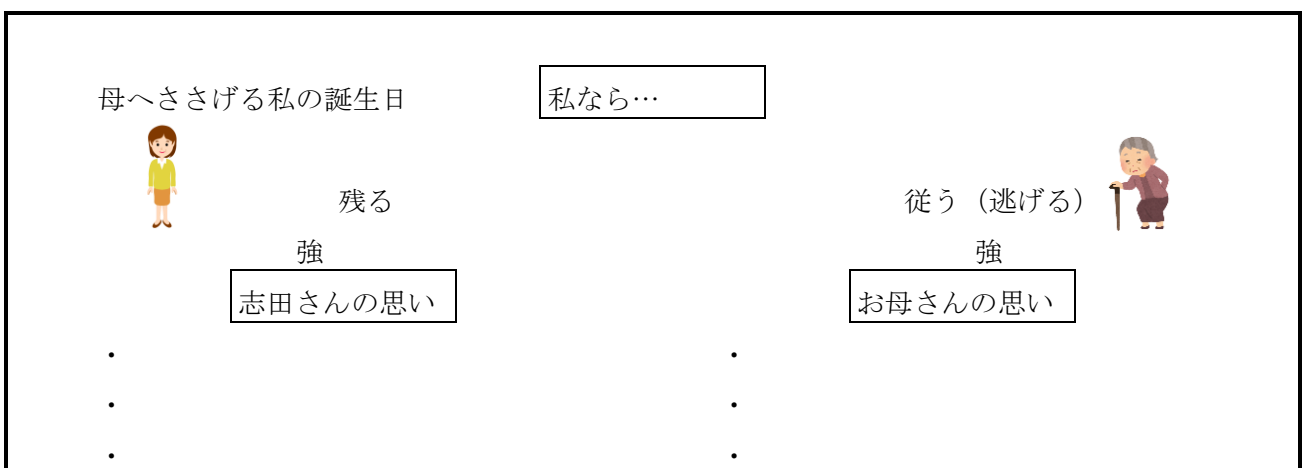
第2学年 道徳学習指導案

日時 平成29年12月1日 5校時

生徒 札幌市立北都中学校2年

- 1 主題名 生命尊重 D-生命の尊さ
(関連項目) B-家族愛
- 2 ねらい 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重する道徳的態度を育てる。
- 3 資料名 母へささげる私の誕生日 (新聞の投稿記事をもとにした読み物資料)
- 4 資料と留意点 2011(平成23年)年3月11日に起きた東日本大震災。その8か月後に岩手県の49歳の女性が投稿した新聞記事があった。亡くなった母への思いがあらわれていて、心をうつ内容として反響をよんだ。その内容からある教師が道徳教材用として文章を起こしたものである。実際の新聞投稿と異なり、本教材では、自分のこととして捉えやすいように、また、生命の連続性を深めるために「母」が「子」を逃がした設定になっている。
- 震災そのものの扱いについては、被災地域からの避難者がいる場合は、生々しい経験が心の傷となっている可能性があり、慎重にしなければならない。また、「生命尊重」のテーマについては、人間の根幹に関わる内容であるため、より慎重な取り扱いが必要である。
- 祖父母から父母、孫の代へと命が受け継がれていく命の連続性、父母、祖父母への感謝の気持ち、いろいろな人が支えあって生きていること、自分の命は自分だけのものではなく、また、誰の命も尊重されなければならないという点に重きをおいて指導したいと考える。
- 5 めざす生徒像 ○真理を愛し、創造的思考力をそなえる人間 (考える)
○責任を自覚し、自主・独立をめざす人間 (やりぬく)
○個性を尊重し、豊かな上層に満ちた人間 (たかめあう)
◎生命を尊重し、強じんな身体をもつ人間 (きたえる)

6 板書計画



7 本時の展開

	学習内容	発問と生徒の活動	留意点				
導入 5	○導入 ・今日の資料について 東日本大震災(2011. 3. 11) 当日のある家族の話。 普通の生活を送っていた たくさんの人が、突然命を 落とした、いたましい災害	・中学生であるみなさんにとって、一番身近にいる 大人って 誰ですか。 父、母、きょうだい… →家族 普段、私たちは何げなく毎日を送っているが… ・東日本大震災の資料映像を視聴。 編集映像(約90秒) 地震発生→津波	刺激が強いので 注意を促す。				
展開 35	・資料を読む (震災の半年後に新聞社に 投稿された記事をもとに、 作られた文章)	・資料の説明を聞き、範読を聞く。 ・資料の状況を整理する。 登場する人、当時の場面。 文章理解に乏しい生徒もいるので、 絵などを貼って当時の状況を簡単に整理する。	教師が範読する。 。				
	<p>【発問】もし、自分が志田さんだったら、お母さんの言葉に従うか、それともその場に残るか。</p>						
	<p>・自分の考えを表現する。</p> <p>・グループ内意見交流</p> <p>・交流の様子を発表</p> <p>・志田さんの思いを考える</p>	<p>・考える時間を1分ほどとった後、自分の考えの度 合いを、黒板の数直線上に貼る</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">残る</td> <td style="padding: 5px;">従う</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">強</td> <td style="padding: 5px;">強</td> </tr> </table> <p>・理由を発表 教師が指名し、数人が発表する。</p> <p>・指定された3～4名ずつのグループ。 ・グループ内でそれぞれが自分の意見と理由を発表 する。発言者に質問してもよい。交流時間は5分 。 (正解はない。意見の統一は求めない)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>私はこうします。理由は〇〇です。 (順番に全員が自分の考えを述べる面をつくる)</p> </div> <p>・2～3グループ程度、発表する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>自分は他の人の考え(自分と違う考え)を聞いて どう感じたか。</p> </div> <p>【両者の立場にたって考えることでの深まり】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【発問】志田さんの思い：志田さんは後悔しているのだろうか</p> </div> <p>・後悔している。 ・迷いがある。 ・仕方がない状況だ。 ・二人一緒だと津波に巻き込まれる。 ・とりあえず、母の願いは叶えた。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どうして そのよう に考えた か。</p> </div>	残る	従う	強	強	<p>全員が黒板の前に 列ごとに並んでいく。 気持ちの度合いに応じ て黒板に名前カードを 貼る。 一人ずつ黒板前 に立てるよう一方通行 にする。 他者の意見を尊重して 聞く。 必要あれば余白にメモ をとって もかまわない。 机間指導で発表班を決 める。 発表者は機械的に指名 する。</p>
残る	従う						
強	強						

	<p>・お母さんの思いを考える</p> <p>【発問】母の思い：お母さんはどのような思いで逃げなさいと言ったのだろう。</p> <p>↓</p> <p>(どうして娘の命の方が大事だと思ったのだろう)</p> <p>↓</p> <p>【補助発問】子ども(志田さん)が逃げてくれた時、お母さんはどんな思いだったのだろう。</p>	<p>・娘には助かってほしい、生きてほしい。</p> <p>・このままでは、二人とも助からない。</p> <p>・自分より娘の命の方が大事。</p> <p>・元気で生きてほしい。</p> <p>・自分の思いを娘がわかってくれた。</p> <p>・逃げてくれてよかった。</p> <p>・これで自分の人生を全うできる。</p> <p>(バンザイと叫ぶ時はどんな時なんだろう)</p>	
	<p>【再発問】もし、自分が志田さんなら、お母さんの言葉に従うか、それともその場に残るか。</p>		
	<p>・自分の考えを確認する。</p>	<p>・志田さんと母の両者の立場で考えた結果として、自分の考えの変化を貼り直す。同じでもよい。</p> <p>・考えを変えた生徒がいたら、数名が意見を発表する。</p>	<p>全員が黒板に出る。変更ない者も含めて全員が自分の考えを確認する。</p>
<p>終末 10</p>	<p>・追加資料を読む</p> <p>○生命の大切さや生命のつながりについて考える。</p> <p>【深化のための発問】 「母へさげける私の誕生日」というタイトルに寄せた志田さんの思いは、どのようなものだったのだろう。 →(志田さんは、このあとどのような思いで生活していくのだろう。)</p> <p>○本時の整理</p>	<p>・志田さんが実際に投稿した記事を読む。</p> <p>【生命の大切さ、つながり、連続性への深まり】</p> <p>(その思いが新聞の投稿記事のタイトルにこめられている)</p> <p>・母への感謝や子どもへの愛情</p> <p>・今を生きていることの大切さ</p> <p>・自分ひとりの命ではない</p> <p>・この時間を通して考えたことを書き記す。</p>	<p>教師が朗読する。</p> <p>時間があれば発表させる。</p>

8 本時の評価(期待する学びの姿)

- ・生命の大切さ、自他の命の尊重についての発言や記述がある。
- ・生命の連続性に関連して、父母や家族の気持ちをくみ取り感謝する発言や記述がある。
- ・自他ともに支え合っているということに気付く発言や記述がある。

三月十一日のことです。

警報が鳴りました。

外に出ると津波が家にいる母と私の近くまで迫ってきていたのです。足の悪い母をおぶるように外に連れ出し、駐車場まで走ろうとしたとき、津波が近くまで迫っているのが見えました。

「おいて行け。もう歩けないからおいて行け」

母は私の手を振り放し、叫びました。

「もう、じゅうぶんだから。じゅうぶん生きたから、行け」

戸惑う私を押し、母は道に座り込みました。

「行け」

私は迷いながら母を振り返りました。

「行け」

津波が母の後ろに見えます。

「行け」

母のバンザイする姿と津波が車のミラー越しに見えました。

あれから、半年。

私は生き残り、母は見つかりません。

母のバンザイするあの日の姿を夢に見るのです。

2011年11月12日 読売東京朝刊

岩手県大船渡市 志田由紀さんの投稿 をもとに

千葉県立磯辺中学校 久保田美和先生 作の資料(一部改)